

令和元年11月28日

美咲町教育委員会

教育長 黒瀬 堅志 殿

評価者 佐々木 勇

(美作大学生生活科学部)

「美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」に関する所見

I はじめに

第2次美咲町教育振興基本形計画に基づき、「令和元年度 美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」がまとめられた。この報告は、学校教育や社会教育、文化、スポーツ等の教育分野全般にわたっての具体的な取組や目標とする指標を明らかにすることで、学校や家庭、地域とが連携し、よりよい未来を拓くために着実に施策を推進されたものである。これらを見ると、成果を上げてきているのがよく分かるが、継続と維持に縛られていると思われる部分もあるので、部分的手直しに目を奪われることなく、事務局の自己評価にもあるように、ある程度の思い切った刷新が求められる。

II 教育委員会の組織及び活動について

教育委員会は定例会の会議をはじめとして、岡山県教育委員会・美作地区市町村教育委員会研修会などの研修会等に積極的に参加し、県内外の教育情報について識見を深めるなど、意識の向上に努めている。また、事務局職員ともよく連携し、十分な時間をかけて審議及び協議が熱心に行われている。

教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理をはじめとした、多くの議題が検討されている。数値目標が設定されており、マネジメントサイクルによる評価がされている。評価のランクがもう少し具体的に表記されていると、分かりやすい。今後も引き続き、関係部局との連携も深めながら事務の執行や推進が行われると、さらに成果が期待されるものと思われる。

III 教育委員会が管理執行する事務について

1 基本的・総務的事務

平成29年度に、住民アンケートにより評価を受け、その結果をもとに『第2次美咲町教育振興基本計画』が策定された。5年計画によって毎年推進されているが、社会情勢も大きく変化してきているので、再編成を要する事項も出てきているのではないかと考えられる。

柵原地域では、義務教育学校の創設についての協議をされているが、全国を見てもイエナプラン教育を取り入れた学校や、義務教育学校が設置されてきている。地域のニーズや学校の実態によって、新しい学校の設置が期待される。

2 人的管理に属する事務

県費負担教職員の人事については、津山教育事務所と連携をとりながら、学力向上や問題行動の課題解決に向けた取組ができていているように思われる。また、教職員の指導力向上に係る県内外の研修も、教育委員会職員のリーダーシップにより、指導・助言が行われての研修になっている。現在、教職員の多忙化等による「働き方改革」が行われているが、このことについても教師業務アシスタントの配置や、校務支援システ

ムの導入により、業務負担の軽減に努められていることは評価される。

現在、特別支援教育については特別支援を要する児童生徒の増加により、教育充実のためにいろいろと工夫・改善が行われている。本町においては、県費だけでなく町費による配置が行われ、県教育委員会だけでなく町長部局主催の研修も行い、研鑽も深めているので、引き続き継続した取組が望まれる。

IV 主要事業の点検評価について

1 学びプラン

(1) 学力向上

「主体的・対話的で深い学び」の学習が、全国各地の学校で試みられている。「授業改善の働きかけ」では、数値目標を設置して実施されているが、学力は全国平均に及ばない点も見られる。「主体的な学び」では子どもたちの問いの引き出し方の難しさ、学習への興味・関心の薄さ・低さ・なさなどの対応をどうするか。「対話的な学び」ではペア・或いはグループ学習、参加に意欲的でない児童の指導の在り方をどうするか。「深い学び」とはどの程度のものかなど、課題は多い。しかし、教師は教え込む授業から問題解決学習＝探求的な学習へと、脱皮しなければならない。教師の授業力の向上が、学力向上につながるものと思われる。

(2) 健全育成

「あいさつ運動の推進」「基本的生活リズムの向上」「スマホ等の対策の推進」「人権教育の推進」などは、きめ細かな取組がされており全体を網羅しての評価となっている。これらのことが改善したり、身に付いたりすることは、学力向上にもつながる。保護者が、いかに子育てに関わっているかということにも関連することなので、家庭教育の充実に一層支援していただきたい。

(3) 読書推進

就学前児童の読書推進の方策は大いに評価されるものである。早期からの読書推進は読書に親しむ環境づくりにつながるとともに、人材育成につながるものと期待される。町内の三つの図書館では、若い母親が子どもを連れて来館したり、高齢者の方が読書をしたりする姿を見ることができる。このことが、児童生徒の図書館利用や、イベントの参加につながっているものと思われる。図書館司書と、学校司書や図書担当者との連携による、ビブリオバトルなどの行事を開催することも考えられる。

2 つながりプラン

(1) 学校支援

「おかやま子ども応援事業の効果的な推進」については、どの事業とも大きな成果が上げられている。このことは、事業担当者のきめ細かな取組の成果であろうと思われる。「成果と課題」にもあるように、スタッフの減少傾向や、担当者とは逆の目的外利用などの傾向については、どこかで歯止めをする必要がある。

また、これからは学校から地域への支援だけを求めるのではなく、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」が重要なものとなってくる。そのためには、学校が支援や協力を求める一方向の支援ではなく、地域や保護者への学校だよりやホームページなどによる、情報発信が重要になる。

(2) 地域学習

地域での子どもから大人までの交流の機会を広げる地域学習は、「地域に愛着を持

った子どもの育成」「地域の教材・人材の活用」で、大きな成果が見られる。今までの参加から、参画の在り方についても考えていきたい部分である。このことが、子どもたちの地域を愛する、ふるさとを愛する心につながり、美咲町に定着する子どもが、一人でも多く出てくることが期待される。「岸田吟香」「本田益次郎」「山田方谷」などについては、それぞれが旧町に関わっている人物なので、横断的・総合的な探求課題として、地域学習には重要になるものと思われる。

(3) 住民交流

各地域で開催される文化祭や地域との交流では、小中学生の積極的な出品や多数の参加が見られることは素晴らしいことである。また、中学生が町花の菊作りをするということは、町民の方との交流だけでなく心の教育にもつながるものである。

3 夢育みプラン

(1) 夢育て支援

グローバル化や国際化に向けての取組が、全国各地で盛んに行われている。本町では、ALT の充実や小学生対象のイングリッシュキャンプの実施、中学生対象のニュージーランド短期留学など、充実した各種講座等が開催されていることが評価される。

キャリア教育の充実については、早い時期から教育活動全体を通して推進されており、まとめて成果の発表を行ったり、各総合支所などに掲示されたりしているのが、大変効果的である。

(2) 子育て支援

家庭教育支援チーム、学校教職員等の親育ち応援プログラムによる保護者のつながりの支援では、継続した取組ができている。これをさらに、早期の段階ですべての子どもたちをスクリーニングにかけて、全体を見ることができるようになれば、特別支援を要する子どもの早期発見・早期対応につながるものと思われる。

安全・安心については、スクールバス利用の学校が多いので、危機管理対応については十分配慮していただきたい。

(3) 生きがいづくり

他地域に誇れる、文化・芸術・文化財が町内には多い。そして、これらの優れたものがよく保存されたり伝承されたりしている。また、魅力ある生涯学習講座の充実や社会教育団体の育成等にも成果が上がるように努められている。これからは、人口の減少による講座や教室の在り方が問題になってくるものと思われる。移動教室や出前講座など、地域間交流の推進も考えられる。

V おわりに

第2次『美咲町教育振興基本計画』の項目に基づいての点検・評価ということで、より具体的に内容についての点検・評価となり、分かりやすいものとなっている。そのため、成果と課題によって次年度への取組が明確になってくる。

現在、社会情勢や町内の様子も大きく変わってきているので、それぞれの項目が妥当なものか、また項目内容についての検討も必要ではないかと思われる。道德の教科化、英語教科化、プログラミング教育、ICT の環境や先端技術の利用など、教師の在り方や教育環境の整備も望まれてくる。中央教育審議会の審議や文部科学省の通達を待たずに、教育委員会や学校の英断が必要となる時代がくるのではないかと考えられる。